

採用担当者が語る国税

◆メンバー紹介◆

●長：試験係長

資産出身。頼りになるミスター試験。顔は怖いが中身は優しい并当男子。

●A：試験係主任A

徴収出身。3年目にして採用チーム。アニメを肴に晩酌するのが日課。

●B：試験係主任B

法人出身。調査部からやってきた新星。ラーメンと菓子パンが主食のドリーム。

●C：試験係主任C

某国家一般職からの転職組。フレックス制度を活用し、子の送迎を分担。

長 本日は「採用担当者が語る国税」と題して対談していきたいと思っております。A B C よろしくお願ひします！

試験係



B まずは我々、人事第二課試験係の仕事を紹介いたします。ざっくり言うと、「税理士試験の実施」「各試験区分の採用試験の実施」「部内研修選抜試験の実施」の3本の柱でしょうか。

長 税理士業務については、職員として一定期間勤務すると税理士試験の免除が受けられるので、その窓口にもなっているね。

A 採用チームでは、採用後の内定者が安心して職員になれるようフォローしたり、未来の受験者に向けて業務説明会を企画したりもしています。

C 人事第二課には試験係のほか、ハラスメント対策・育児や介護との両立・超勤対策等を行っている服務係、職場研修の充実を支援する研修係があり、一体となって東京国税局の職場を支えています！

試験係にはどんな人がいる？

長 国家一般職・総合職と違い、採用区分による任用の違いはありません。経験年数(年齢)、勤務成績、本人の希望・適性によって、任用が決定します。ですので、全員が、税務署や国税局で現場を経験した後に数回目の異動で来ています。

A 様々な部署から集まったメンバーなので、

それぞれの得意分野や人脈が、仕事に役立っています。国税に興味を持っていたいた皆さんや受験を考えている皆さんの質問に対しても、それぞれの経験から回答します！

国税の仕事は

B 本題に入りましょう。国税は、納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現することを使命とし、内国税の賦課・徴収を行う官庁として国の財政基盤を支える重要な仕事をしています。具体的には、①税を正しく知ってもらう正しく申告してもらうための納税者サービス、②その申告が正しいか確認する税務調査、③その申告に基づいて正しく納税してもらうように働きかける管理運営・徴収と、3つの柱があります。

C 国税局に採用されますと、まずは税務署にて、②の税務調査(税目によって、個人課税・資産課税・法人課税に大きく分れます)又は③の徴収に従事することになります。

A 税務署(支店)での実務経験や研修を踏まえ、国税局(本店)でしかできない仕事にも挑戦してもらいます。税務署の指導監督を行うほか、税務署だけでは実施できない大規模で広域・困難な事業の税務調査や滞納処分を担当しているのが国税局(本店)です。中でもメディアで取り上げられることが多い部署として査察部(通称マルサ)が挙げられますが、ここでは大口・悪質な脱税を扱い、脱税を犯罪として告発まで行っています。

長 ざっくりとした業務説明でしたが、要するに、税のスペシャリストとして「正直者には尊敬の的、悪徳者には畏怖の的」となるのが国税の仕事です。

正直者には尊敬の的、悪徳者には畏怖の的

我々が掲げているこのスローガンは、適正に申告している納税者からは任務を全うしていることと認められるように、反対に悪質な納税者からは的確な調査を行う等で恐れられるようにといった、国税のあるべき姿を示しています。

国税のココが良い

長 では仕事面から。税務職員は調査・徴収の現場に出ることが中心となりますが、その際はすべての業界・業種が対象となります。たとえ同じ業種であっても、財務状況や規模は異なりますので、まったく同じ事業は一つとしてありません。しかも調査・徴収の相手方は、社長や資産家、医師・芸能人といった個人事業者と各業界で活躍されている方が多いので、



仕事を通じて、社会・経済の最前線を実感することが出来ます。そのため、自分の人間力が日々成長していくのを感じられますし、毎日が新鮮だと思えます。

A 私も飽きっぽいので、その点は凄く良い職場だと思っています。加えて、調査・徴収をする部署もあれば法律を駆使する部署、システムを活用する部署もあるので、現場仕事だけでなく、様々なフィールドで活躍することができ、常に新しいことにチャレンジできる環境ですね。

C 国家一般から転職してきた自分としては仕事内容や昇任基準について、国税の職場は採用区分による違いが無いのも良いですね。勤務がりが評価されれば、学歴に関係なく役職が上がります。平たく言うと実力主義で、公平な職場環境です。

B これは他と比べようがないところですが、面会見の良い職員が多くて助かっています。公務員は縦割りと言われてますが、事業担当者は自分なので、自分の責任で意見を言えますし、全員が同じ使命を抱いて働いているので担当が困っていれば全員で解決します。そんな風土なので、教えたがりが多い気がします。

国税のココが大変

長 好かれる仕事ではないです。積極的に調査や徴収に来てほしいと思っている納税者や滞納者はまずいんです。ただ、正直者のために、公正な世の中を創るために、誰かがやらなければいけない仕事です。

A 常に学び続ける必要があります。税法だけでなく、世の中のトレンドや取引形態などは目まぐるしく変わります。そのため、国税で働く職員は常に知識をアップデートしておく必要があります。

B 人を相手にする仕事なので、知識はもち

ろん相手を説得する人間力が必要です。知識は勉強すれば身につくものですが、相手を説得する「人間力」はすぐに身につくものではありません。ただ、調査・徴収の経験を重ねるうちに、こうすれば相手が納得するのではないかな、などと考え、成功や失敗を通じて自分自身と向き合っていきます。

C どの職場でも一定のストレスは溜まるものかと思いますが、税務の職場も、それなりにストレスはあります。国税の仕事は独特な仕事であり、ときには悔しい思いや腹が立つ思いを経験します。そんな時は、同じ思いをしたことがある仲間と相談して解決したり、アフター5や休日に発散したりすることで乗り越えています。

長 税金という、命の次に大切と言われるお金を扱う仕事なので、誤りは許されません。ときにはプレッシャーを感じることもあるかもしれませんが、それだけ責任のある仕事をしているの自負しています。

C 育児中なので思うところは、テレワークできない仕事も多いなど。国税は、調査や徴収という相手と対面して行う仕事が多いので、テレワークに馴染まない部分があります。しばらくはテレワークのしやすい部署を希望していますが、子が大きくなったら現場仕事に戻りたいなと思っています。

国税に向いている人

長 なにも特別な能力や資格は必要ありません。国家公務員として必要な、公正な判断力、正義感、責任感があることは前提とさせていただきます。

まず、失敗や困難に対しても前向きであること。次に、目標達成に向け積極的に仕事に取り組めること。そしてコミュニケーションが上司・同僚だけでなく納税者ともしつかりとできる方が向いていると思います。A 中でも楽しく仕事をしていると、活躍している職員の共通点としては、より効率的で効果的な調査・徴収を目指して考え続け、日頃からアンテナを張って自身をアップデートすることをお勧めします。向上心・好奇心旺盛な方でしょうか。

国税のアピール

長 まずは、充実した研修制度。必須で受けられる長期研修の他、より専門的に学びたいときに使える、様々な研修が用意されています。採用されるまで、まったく税法や簿記会計に縁が無かった人も、座学と実地研修で、立派な専門員として育ちます。A 続いて、専門性の高い業務。業務を通じて様々な知識が身に付きますし資格取

得も目指せます。スキルが身に付くので、退職後もセカンドキャリアを築く人が多いかも。B やはり、高水準な給与。国家一般職より一割以上高いのは、それだけ唯一無二の仕事で、やりがいがあることに繋がりますよね。

C そして、ワークライフバランスの充実。私の転職理由でもありますが、制度があるのは当たり前ですが、当たり前に制度を活用している社風は有難いですね。やはり組織が大きく、部署や税務署(支店)が多く、人が多いからこそできることですね。

東京局の特色

長 採用やその後の任用は、全国十二の国税局単位となります。仕事内容や制度はどの局でも同じですが、規模による違いや、勤務する地域による違いがあります。

A まず第一に、東京局は、所得税確定申告者数をはじめとする各項目において全国国税局内第一位を占めています。シンプルに、最も規模が大きい国税局と言えます。

B 関連してきますが、最先端の仕事に従事できると思います。東京局は経済の最前線に立つことから、最先端の国際取引やICT関連など、より専門的な調査を経験できます。また、それら最先端の取引実態等を把握・解明し、その成果を他の国税局に波及させる役割を担っています。

C 転居を伴う転勤がほとんど無いことも特色です。東京局管内の税務署は、東京都内に48、千葉県14、神奈川県18、山梨県4の計84あります。都心部及びその周辺に多くの税務署が集中していることから、自宅から通える勤務地が複数あり、転居を伴う異動を気にせず、安定した生活を送っています。

メッセージ

長 公平な世の中を創る志に、共感してくださった皆さん、ぜひ国税の扉を叩いてみてください。我々試験係が窓口となつて、御案内いたします！

東京国税局は、あなたの正義感を待っています

